

①八女古墳群・石人山古墳の視察

石人山古墳は、福岡県広川町に位置する全長約 120m の前方後円墳です。
今回の視察では、特に以下の点に注目しました。

1. 象徴としての「武装石人」

写真にある「石人社」の内部には、この古墳の名前の由来となった武装石人が安置されています。

- 特徴：浮彫りで表現された鎧（挂甲）や兜、矢筒などが非常に詳細で、当時の武人の装いを現代に伝える貴重な資料です。
- 時代背景：磐井の乱（527 年）で知られる筑紫君磐井の祖父、あるいは父の墓という説が有力視されており、地域の有力者の権威の大きさを肌で感じることができました。



2. 横穴式石室と保存状態

石人社は、古墳の後円部にある横穴式石室の入り口を守るように建てられています。

- 石室には、当時最高級の石材であった阿蘇溶結凝灰岩（阿蘇ピンク石）が使用されており、その赤い色彩がかすかに残っている点も、当時の美意識を象徴しています。

【所感】 ガイドの説明を受けながら見学することで、単なる「古いお墓」としてではなく、当時の政治体制や大陸との交流、そして高度な石工技術の結晶としての古墳を学ぶことができました。特に、風雨から守るために社の中に大切に祀られている石人の姿からは、地域の人々がこの歴史的遺産を長年守り続けてきた敬意を感じ、文化財保護の重要性を再認識する機会となりました。

②岩戸山歴史文化交流館(いわいの郷)を訪れて

展示の圧倒的なスケールと「石人・石馬」】館内に入ってまず目を引いたのは、国指定重要文化財である膨大な数の石人・石馬の展示でした。石人山古墳で見た武装石人とはまた異なる、武装した兵士、力士、盾、そして愛らしい表情の馬など、その種類の多さに圧倒されました。これらがかつて古墳の「別区（べっく）」に並べられ、裁判や儀式の様子を再現していたという解説を聞き、当時の死生観や社会体制の高度さに強い関心を抱きました。



筑紫君磐井と北部九州のプライド

特に印象深かったのは、ヤマト王権に抗った**「磐井の乱」

**に関する展示です。教科書では「反乱」として一言で片付けられがちですが、ここでは磐井がどのような想いでこの地を治め、大陸（朝鮮半島）との独自の外交ルートを持っていたのかが丁寧に描かれていました。石製品に刻まれた精巧な装飾からは、当時の八女が中央に負けない独自の高い文化水準を誇っていたことが伝わってきました。

歴史を「体感」させる空間

最新の映像展示や、実物大の石室模型などは非常に分かりやすく、古代の世界にタイムスリップしたかのような感覚を味わえました。また、館外に広がる岩戸山古墳そのものが、現在も市民の憩いの場でありながら巨大な歴史遺産として鎮座している光景は、歴史と現代が共存する八女ならではの魅力だと感じました。